
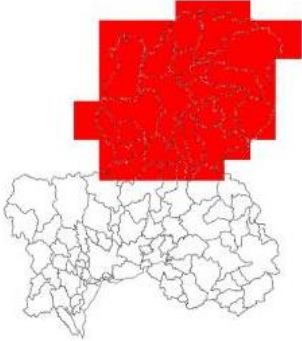


コバノリュウキンカ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>pygmaea</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(加藤範夫) 
形態の特徴	多年草。根生葉は心円形～腎円形で、基部は深く凹み、縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は高さ15cmほどで、上部に少数の茎葉をつける。花期は5-7月。茎頂及び葉腋に1個ずつ径2.5-3cmの黄色花をつける。	
生態的特徴	浅い水中や湿地に生える。	
分布状況	日本固有の種。本州、九州に分布するリュウキンカの特に小型の品種であるが、正確な分布域ははっきりしない。県内では県北の東部及び西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北の2地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、本種は鉢植え等の園芸目的で採取され、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	
		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責:佐藤和良